

会派視察・研修報告書

会派名 市 民 の 会

代表者名 仙石 三喜男

1 日 に ち	令和 4 年 10 月 11 日 (火) ～ 13 日 (木)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	研修名：人口減少社会における議会の役割 主催：公益財団法人 全国市町村研修財団 JIAM 場所：全国市町村国際文化研修所
3 参 加 者	仙石 三喜男 (1 名)
4 調査・研修の テーマ	① 地方行政を取り巻く 2040 年頃にかけて顕在化する諸課題 ② 講義・演習を通じて、人口減少社会を見据えた今後の施策
5 主な内容	① 地方行政の現状と課題～2040 年を見据えて ② 過疎地域の持続可能なまちづくりを目指して ③ わがまちのありたい姿（ビジョン）を考える ④ 人口減少社会における議会の役割
6 所感、提言事項、課題等	【議員氏名】仙石 三喜男 コロナ禍が少し落ち着く中、久しぶりの JIAM の研修で 3 日間参加させて頂きました。今回の本テーマが議員にとって身近な内容であったせいか、全国から当初定員 60 名に対して 79 名の参加があり盛況の研修になったと捉えます。グループ演習の場があり、議員同志の意見交換と併せ、地域の話題や現状問題についても話題が弾み良い研修になったと思う。 さて、今回の研修は、これから議論がスタートする多治見市第 8 次総合計画を前にして、最大のテーマとなるであろう「人口減少」問題について 2040 年を見据えて地域の課題を客観的かつ長期的な視点で整理【地域の未来予測】をし、議論を深め、その結果を様々な計画に今後反映していくことの大切さを学ぶため研修に参加させていただいた。 具体的な内容では、地方行政の現状と課題～2040 年を見据えてでは、地方行政をめぐる平成の出来事は、1) 機関委任事務制度の廃止 2) 事務の権限移譲等の分権改革、平成の大合併による市町村合併、そして政策目標の効率的・効果的な実施の実現を目指す行政改革などで、如何に「地域を次世代に引き継ぐこと」が大きな使命であつ

たかと捉えられています。が、これからは、2040 年に向けて地域の課題にしっかり対峙していくことが行政・議会共に必須であるとの見解で、そのためにも「地域の未来予測」つまり目指す未来像をデータを基に客観的かつ長期的な視点で整理し、議論を重ね政策や計画に移していく重要性を学んだ。地域課題は、現状の問題点には向上を！可能性のある良い点には更に向上させることが求められるとの見解でした。

特に今回の研修テーマは、「人口減少」についてどう向き合うかが主目的であって、新潟県の事例分析や福井県大野市の石山市長さんからは第 6 次総合計画「人がつながり地域がつながる住み続けたい結のまち」の取り組み事例発表があり、今後の多治見市政の参考になりました。特に、子育てについては、人口減対策として最大の課題として①20 歳までの医療費助成、医療費無料化②第 2 子以降の児童は所得制限なしで保育料無料化③第 3 子以降の小中学校の給食費助成事業など、大野市ですくすく子育てパッケージとして、人口減対策では全国トップクラスの取り組みとして紹介がありました。また、結のまちづくりの取り組みでは、市内 9 か所の公民館を地域拠点とした住民主体の地域課題の解決が持続的に行われる体制づくりに力を注いでおられ、高齢化と併せ人口減少対策として自治活動にも行政支援を実施しているとのことでした。

我がまちのありたい姿（ビジョン）を考えるでは、3 市 1 町の「未来カルテ 2050」＝自治体別に 2050 年まで現状の傾向が続いたとしたら、どのような地域・社会になるか様々なグラフで示すもので、本カルテを使ってワークショップ方式で議論をし、検証をしました。その結果に基づき 2040 年を見据えたグループ毎に提言をまとめ、全体場で発表する体験型研修でした。今後、本市においても 2040 年を見据えて「未来カルテ 2050」を採用した議論を深めることも良いのではないかと思うところです。

参考：未来カルテ 2050 は、研究プロジェクト「オポッサム」の成果物で、未来カルテの情報は、<http://opossum.jpn.org/>に掲載。

最後の「人口減少社会における議会の役割」は、①首長に対抗できるだけの専門知識や能力を持った議会を構築すること②政党や会派の対立を超え、政策討議を行い、議会として一定の結論を得て首長と対峙する姿が望ましい。まさに多治見市議会の現状を危惧することを講師から指摘され、私も議会人として同感したところです。今後、人口減少の議論においては、①②の姿勢でしっかり議論を深めていくことの重要性を改めて再認識する研修となりました。

以上